

出荷情報を自動集計

三重・JA伊勢 事務負担減へ電子化

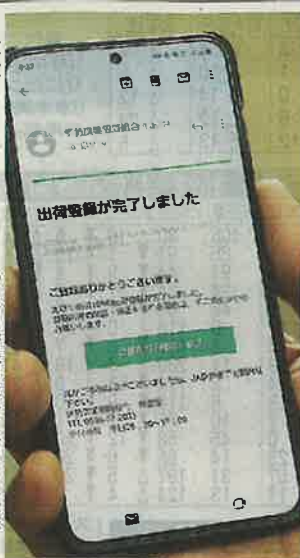
えびすかぼちゃ

【三重・伊勢】JA伊勢は、特産「えびすかぼちゃ」の出荷受け情報の入力と組合員との連絡に独自のデジタルツールを導入した。組合員がスマートフォンやパソコンなどから出荷予定数量や等階級などを入力。データは自動的に集計され、出荷伝票の入力・集計作業を大幅に効率化できる。集荷の事務負担を軽減するとともに、販売先との情報共有による有利販売を目指す。

これまでは、生産者が農産物と一緒に持ち込んだ出荷伝票を基に、販売精算システムに職員が手入力していた。出荷当日にならないと数量や等階級が分からなかったので、集荷作業の効率化が低く、市場業務で導入していたクラウドサービスを活用し、職員が独自の集荷システムを構築。7月



タブレット端末に集計された出荷数量などを確認しながら検品作業をするJA職員（三重県玉城町で）



生産者がスマートフォンから出荷情報を入力した際の画面



出荷情報を確認できるタブレット端末の画面

から利用を始めた。これまで出荷伝票の入力・集計作業に約1時間かかっていたところ

を約5分まで短縮できた。出荷数量や等階級などの情報は生産者単位で表示。市場担当者にもいち早く情報を送ることができる。前日までにおおよその出荷予定数量・等階級が確定するので、品目によっては取引先との価格交渉が優位になる可能性もある。

システムは都度更新。より良いシステムにするため、現在も担当者らが生産者から改良点など要望の聞き取りをしている。JAの担当者は「効率化につながるだけでなく、取引先との価格交渉に活用することで、少しでも生産者に貢献したい」と話す。